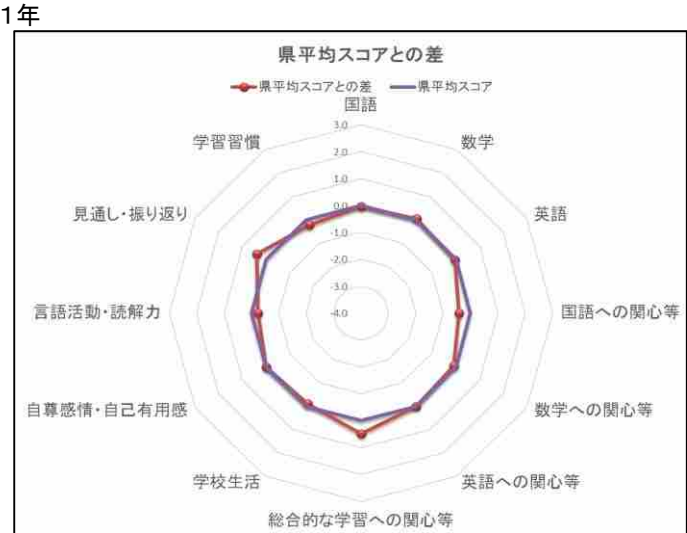


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立第四中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○漢字の読みの力がついてきている。 ●文章の構成を考えて書く項目に課題がある。	・漢字の学習は継続して行う。 ・書いて考えをまとめる学習を随時取り入れ、書くことに対する抵抗を少なくしていく。
	数学	○方程式を解いたり、数量関係を不等式で表す問題で、県平均を上回っている。 ●図形の求積や関数領域において平均を下回っている。	・授業の始めに小テストを行い、基礎基本の定着を図る。 ・表現力や見方、考え方を伸ばすような授業の改善を図る。
	英語	○英語で何とか表現しようとする意欲がある。自己表現への抵抗は少ない。 ●語彙の知識・理解に最も課題がある。一文を聞いたり読んだりして理解することはできても、やや長い文章の概要をつかむ読み取りの力にも課題がある。単語練習などの地道な努力の継続ができていない実態がある。	・基礎的な単語の力をつけるため、小テストや基礎力テストをさらに継続し、重点的に指導する。 ・読めて意味がわかる語彙を増やすための活動も増やす。
2年	国語	○漢字の読み書きの力がついてきている。 ●文章の構成や展開、表現などを捉える項目に課題がある。	・漢字の学習は継続して行う。 ・文章の構成、展開、表現の仕方が意識できるような授業展開を積み重ねていく。
	数学	○数式の計算や連立方程式についての問題は県平均を上回っている。 ●関数(グラフを読み取る)や図形(空間認知)での弱みがある。	・授業の初めに小テストを行い、基礎基本の定着を図る。 ・全般的に平均を下回っているので、スモールステップで学習を進め、徐々に発展へとつなげる授業を行う。
	英語	○英語学習に対して前向きな関心を持っている。 ●英作文への苦手意識が見られ、記述問題への無回答率が高い。英文の概要を理解する力も不十分である。	・自力で英文の内容を理解させる活動を増やす。 ・基礎的な単語の力をつけさせるための小テスト等をさらに継続するとともに、主語と動詞のある英文で表現させる練習を増やす。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート

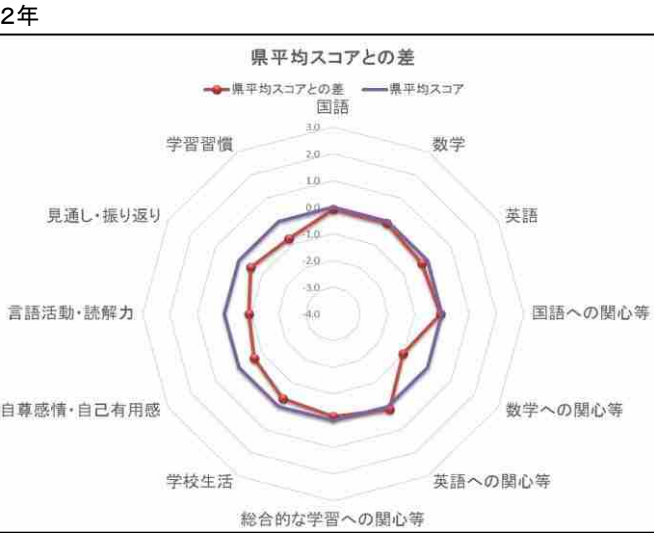


(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	66	39	62
	松江市	68	41	65
	島根県	67	38	64

受検者数
1年生 171 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	64	38	52
	松江市	67	43	58
	島根県	65	40	57

受検者数
2年生 205 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○話し合い活動などコミュニケーションをとりながら考えを深める学習を多く取り入れている。 ●学習時間の振り返りがあまり意識されていない。	・継続して友達と関わりながら考えを深めていく活動を行う。 ・一時間の振り返りを意識して行うようにする。
	家庭学習に関わる事項	●平日の家庭学習の時間が1時間以上の割合が県平均よりも低い。	・自学ノート、学習プリントの活用を声かけを継続して行う。
2年	授業改善に関わる事項	○授業のめあてを意識して授業に臨んでいる。 ●話し合いながら考えを深める活動が少ない。	・話し合い活動を意識して授業場面に取り入れ、かかわりあいながら考えを深める活動になれるようにする。
	家庭学習に関わる事項	●平日の家庭学習の時間が1時間以上の割合が県平均よりも低い。	・自学ノート、学習プリントの活用を声かけを継続して行う。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

